

# 市川の歴史

発行：八戸市立市川中学校地域学校連携協議会  
 校長：馬渡教二 会長：小向龍悦

## 〈市川の歴史年表①〉

西暦	和 暦	で き ご と 等
	(縄文)	(縄文早期後半) <b>国史跡「長七谷地貝塚」</b> 、約7千年前
1297	永仁5年	「 <b>五戸郷検注進状</b> 」に、「いち河」「ととろき」の記録
1571	元亀2年	戦国時代は名久井城主東政勝氏の所領とされていたが、根城南部氏と櫛引氏の戦いにより、[高屋敷・両市川]は根城南部氏領に編入されたという。(南部家文書)
1618	元和4年	「市川217石、三目沢(水目沢)1石、高屋敷2石余」。このころの市川は、南部藩から与えられた根城南部の知行地
1627	寛永4年	<b>盛岡藩の直轄領となる</b> 。(根城南部氏が遠野に所領替になった年)
1645	正保2年	市川湊に、外国船を見張るために遠見番所が置かれた。
1647	正保4年	市川村195石余 (この頃までの市川村は、おもに後年の上市川村をさす呼称とみられる。)
1650	慶安3年	「八番鮭一尺六戸之内浜市川ヨリ取上、御献上」(五戸川下流の集落は、 <b>浜市川</b> と通称された。=盛岡藩雑書)
1651	慶安4年	市川の漁場について、「南は藩境の <b>黒森</b> 、北は美沢(現 三沢市)、大川(奥入瀬川)は二の留まで、小川(五戸川)は五戸橋まで…」とされていた。(雑書)
1664	寛文4年	盛岡藩と八戸藩の <b>藩境が確定</b>
1672	寛文12年	「当村は八戸藩との藩境にあたり、 <b>下市川黒森</b> を起点とする <b>境塚</b> (現在の三菱製紙の敷地内にあり)が築かれた」とある。(八戸藩資料:領内境塚申合書)
1682	天和2年	市川村を上市川村と下市川村に分ける。 <b>下市川村</b> :202石、馬364疋
1692	元禄5年	「白髭神社」、堂ノ下の白髭神社から分社。文久2年火災
1702	元禄15年	「盗みを重ねた三九郎を市川に追放する」(八戸藩日記:追放はどこ藩にもあった) → 後年、(市川払い)と言われた。
1717	享保2年	幕府巡検使、市川を通過。総勢110名

※ 〈市川の歴史年表〉 は、5号まで発行する予定です。  
 八戸市立市川中学校地域学校連携協議会教育コーディネーター：木 村 隆 一

参考資料：「日本歴史地名体系②」 「新編八戸市史・地誌編」  
 「五戸町史」 「百石町史」 「流れる五戸川」 ほか

